

# イデックスオイルレポート ~For a month~

2023年8月1日作成 (株)新出光

## 【月次概況】

●第2週、週末7/7のWTI原油は、先週比3.22ドル高の73.86ドルとなりました。米労働省が朝方発表した6月の雇用統計は、非農業部門就業者数の伸びが市場予想を下回った一方、賃金の高止まりが改めて示されるなど、強弱入り交じった内容だった。発表後は7月の連邦公開市場委員会(FOMC)での追加利上げを織り込む動きが拡大したものの、外国為替市場でドルの手じまい売りが加速。割安感の浮上した原油の買いを支援した。

●第3週、週末7/14のWTI原油は、先週比1.56ドル高の75.42ドルとなりました。6月の米消費者物価指数(CPI)に続き、6月の卸売物価指数(PPI)もインフレの鈍化を示す内容だったことを受け、米利上げ局面の長期化観測が後退。原油は前日買い進まれ、中心限月の清算値ベースで4月下旬以来約2カ月半ぶりの高値を更新した。ただ需給面に関しては、リビアの複数の油田が地元部族による抗議活動によって閉鎖、英石油大手シェルがナイジェリアのフォルカドス原油の積み荷作業を、漏出の可能性を理由に一時停止、これら供給混乱が向こう数カ月の相場における需給逼迫(ひっばく)への警戒感を高めるとの観測もくすぶっている。

●第4週、週末7/21のWTI原油は、先週比1.65ドル高の77.07ドルとなりました。ロシアは週初17日にウクライナ産穀物輸出合意の履行停止を発表後、同国南部の黒海沿岸地域への攻勢を強化。ウクライナも応戦し、同国港湾に向かう全船舶が攻撃対象になるとする双方の警告を受け、ロシアからの石油や液化石油ガス(LPG)輸出が停滞すると警戒感が強まっている。戦闘激化に加え、制裁対象のロシア産原油の割安感が薄れつつあることを受け、中国とインドの需要が他の産油国に向き、全体の価格押し上げにつながる懸念も浮上。

●第5週、週末7/28のWTI原油は、先週比3.51ドル高の80.58ドルとなりました。米連邦準備制度理事会(FRB)と欧州中央銀行(ECB)の利上げ局面が終了に近づいたとの見方から、世界的な経済成長が促されエネルギー需要が拡大すると期待が台頭。中国が週初、新たな景気刺激策を打ち出す意向を表明したため、原油需要停滞懸念が後退した。27日発表された4~6月期の米実質GDP(国内総生産、速報値)伸び率が前期および市場予想から上振れしたため、米経済がリセッション(景気後退)を回避し、軟着陸する見通しが強まり、市場のリスク選好度が高まっているもようだ。

	7月平均	WTI原油	76.04ドル	前月比	5.78ドル	為替 1ドル	142.30円	前月差	0.03円
--	------	-------	---------	-----	--------	--------	---------	-----	-------

日付	補助金	変動幅	変動幅
7/1-7/5	9.7	+2.5	+2.5
7/6-7/12	10.1	±0	±0
7/13-7/19	10.4	+1.5	+1.5
7/20-7/26	10.2	+0.5	+0.5
7/27-7/31	8.4	+1.0	+1.0

【単位:円/KL】

メニュー価格推移	0.5HPP	ENEOS LS船用燃料油基準価格
	2023年4-6月C重油決定価格	87,660
	2023年7-9月C重油仮価格	89,730
	2023年7-9月C重油決定価格	0
決定価格4-6月比	0	0

【単位:円/KL】

内航燃料油価格推移	適合油価格	A重油
	2023年4-6月C重油決定価格	95,100
	2023年7-9月C重油仮価格	97,130
	2023年7-9月C重油決定価格	0
決定価格4-6月比	0	0

CIF価格推移	年/月	9桁速報	原油CIF価格 円/kl	通関CIF ドル/bbl	為替レート 円/ドル	原油CIF価格 前月比
	23/6	9桁速報	71,831	82.00	139.27	-1,673
	23/7	最終予測	70,033	78.14	142.49	-1,798
	23/8	展望	71,580	81.28	140.00	1,547
	23/9	展望	71,618	82.51	138.00	38

## 【次世代エネルギー】〈理研、アンモニア貯蔵の新技术 常温常圧で安全に〉

次世代エネルギーとしての大きな可能性が秘められているアンモニアですが、特有の強い刺激臭があつて、毒性があるために「劇物」に指定されており、安全な取り扱いが必要です。

理化学研究所と埼玉大学の研究チームは、アンモニアを常温常圧で貯蔵できる新たな手法を開発した。アンモニアを別の物質に変換して取り込める特殊な結晶を使う。脱炭素社会のエネルギーとして期待されるアンモニアを安全に運搬できる可能性がある。現在は低温で液化するほか、圧力をかけて圧縮する方法で運搬されているが、手間とコストがかかるため、常温常圧で大量に運ぶ方法が求められている。ナノ(ナノは10億分の1)メートルサイズの穴が空いている多孔質化合物を使う方法も研究されているが、アンモニアを取り出す際に高温が必要なうえ、繰り返し使うと劣化する課題がある。

理研はアンモニアと常温常圧で反応する有機物と金属でできたペロブスカイト型の結晶の一種を発見した。常温常圧で安定な状態を保ち、貯蔵や運搬も簡単にできるとみている。アンモニアと反応すると色が変わるため、アンモニアを検知するセンサーにも応用できるという。

今後は協力企業を探して大型化し、2030年ごろの実用化を目指す。また、ペロブスカイト結晶は次世代の太陽電池にも応用されている。

出典: 日経電子版 <https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUC106GK0Q3A710C2000000/>

## 【8月価格変動要因】

●需要: 中国景況感は業種によって斑がある状況は変わらず。原油輸入は堅調に推移しており、季節要因とは言え基調の強さが窺える。年初来、原油価格は昨年比低位推移が続いていたものの、製品価格は上昇しており、製油所から見てマージンが回復していることも中国原油輸入が堅調な要因の一つ。31日に発表された中国7月製造業PMI(国家統計局)は市場予想を上回り49.0となった。大企業・中堅企業に続き中小企業も前月比1.0ポイントのプラスとなり、底打ち感が出てきた状況。とは言え、トップラインで依然50を下回る軟調な地合であることは変わらず、基調的な強さを取り戻しているとは言い難く、やはりベースシナリオは緩やかな景況感の回復となると考えられる。

●供給: サウジアラビアの自主減産が継続しており、中東産原油の価格が吊り上げられている。中国などアジア圏のプレーヤー中心に中東産原油は購買が進んでおり、地域需給の逼迫から他地域の原油も物色されている状況。

米国生産動向は、引き続きリグ稼働数の減少が進行しており、足元は2022/3来のレベルとなる529基。リグ稼働数の減少は軟調な原油価格の推移に連動した動きとなっているとの指摘もあり、必ずしもリグ稼働数の減少→米原油生産量の減少には繋がらないとも考えられるが、原油価格は上昇に転じている状況下でリグ稼働数が減少を続ければ以降の価格上昇を正当化する材料として意識されやすい。

●在庫: 原油在庫の推移に比してガソリンなど製品在庫の低位推移が続いており、製品価格の騰勢を支える材料として意識されている。

●リスク資産・金融市場: 中銀動向としては、今後半年~1年の間最大のリスクとして考えられるインフレ再燃懸念を抑えるべく、高水準の金利を維持しつつ、景気をオーバーキルする懸念が生じたらば都度サポートしていくというバランスを重視してシフトしていくとみられる。

### <1ヶ月価格見通し> (単位:US/bbl)

	Brent	WTI
High	90	86
Average	85	81
Low	80	77

### <3ヶ月価格見通し> (単位:US/bbl)

	Brent	WTI
High	88	84
Average	83	79
Low	78	74

日付	国	8月経済指標カレンダー	日付	国	8月経済指標カレンダー
1	米国	7月ISM製造業景況指数	16	ユーロ	4-6月期四半期域内総生産(GDP、改定値)
2	米国	7月ADP雇用統計	16	米国	米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨
3	米国	7月ISM非製造業景況指数	18	ユーロ	7月消費者物価指数
4	米国	7月平均時給	23	米国	7月新築住宅販売件数
4	米国	7月失業率	30	米国	8月ADP雇用統計
4	米国	7月非農業部門雇用者数変化	30	米国	4-6月期四半期実質国内総生産
10	米国	7月消費者物価指数	31	ユーロ	8月消費者物価指数
15	米国	7月小売売上高	31	米国	7月個人消費支出